

シンポジウム

友禅図案(絵摺り)に描かれた 「韓国併合」

立命館大学平和ミュージアムでは、2009年5月23日から6月21日まで、第47回ミニ企画展示「友禅図案(絵摺り)に描かれた『韓国併合』」を開催します。この展覧会では、最近発見された「韓国併合」をモチーフとした友禅図案6点が展示されます。本シンポジウムは、これらの「韓国併合」を描いた友禅図案をどのように読み解くのかを、3人の講師をお招きして様々な角度からお話していただく企画です。1910年を前後した時期、友禅に「韓国併合」がいかにか描かれたのか、そしてその歴史的意味について考えます。

日時 2009年5月30日(土) 13時~15時

場所 アカデメイア立命21 2階・ミュージアム会議室

主催 立命館大学コリア研究センター

文部科学省グローバルCOEプログラム「日本文化デジタルヒューマニティーズ拠点」(立命館大学)

立命館大学人文学会

共催 立命館大学国際平和ミュージアム

木立雅朗氏 (立命館大学文学部教員) 「『韓国併合』図案(絵摺り)を読み解く
-1910年前後の友禅-」

乾淑子氏 (東海大学国際文化学部教員) 「着物の意匠としての韓国イメージ」

喜多恵美子氏 (大谷大学文学部教員) 「植民地朝鮮における文化表象」

◇問い合わせ先◇

立命館大学コリア研究センター (担当: 鄭栄桓)

〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町56-1

TEL 075-466-3264 (内線 3228)

FAX 075-466-3247 (内線 2544)

yev29013@gst.ritsume.ac.jp

講師プロフィール

木立雅朗(きだち・まさあき)

立命館大学文学部教授。専攻は日本考古学・民俗考古学。論文に「伏見人形の成立と発展をめぐる二つの背景—近世窯業の発展と精神文化—」(『立命館大学考古学論集Ⅱ』、2001年5月)、『京焼と登り窯—伝統工芸を支えたもの—』(共著、2006年3月)、など。

乾淑子(いぬい・よしこ)

東海大学札幌校舎国際文化学部教授。専門は民族芸術。研究テーマは、近代の服飾と社会的背景、民族芸術の近代化、多様なテーマを持つ絵本。著書に『図説 着物柄にみる戦争』(インパクト出版会、2007年)、『戦争のある暮らし』(水声社、2008年)など。

喜多恵美子(きだ・えみこ)

大谷大学文学部国際文化学科准教授。専攻は韓国近現代美術史。研究テーマは韓国における美術制度の確立。論文に「村山知義にとっての朝鮮」(『水声通信』3号、2006年)、「韓国におけるアンフォルメル旋風」(『美学』218号、2004年秋)など。

* 第47回ミニ企画展示 「友禅図案(絵摺り)に描かれた『韓国併合』」

時 期： 2009年5月23日(土)～6月21日(日)

場 所： 立命館大学国際平和ミュージアム ミニ企画展示室

開館時間： 9:30～16:30(入館は16:30まで)

入館料(見学資料費)： 大人400円/中・高生300円/小学生200円

※先に地階で入館料をお支払いください。常設展・特別展をご覧ください。

※立命館の学生・立命館で働く人は無料です。

